

# スポーツ理学療法のさらなる発展に向けて

2020年8月24日

日本スポーツ理学療法学会

代表運営幹事 坂本 雅昭

運営幹事 宮崎 喬平

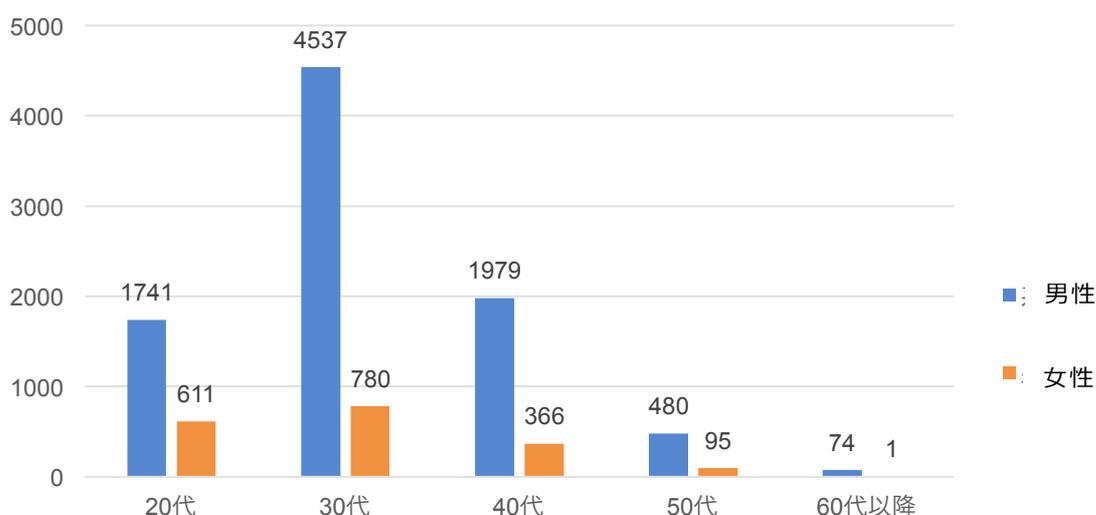
運営幹事 佐藤 正裕

## 【近年のトピックス】

### ・ 日本スポーツ理学療法学会 登録者数

現在、日本スポーツ理学療法学会への登録者数は10,664名（2020年4月現在）となっております。今から5年前（2016年4月時点）の登録者数は780名でありました。この5年で急激に登録者数が増加した背景には東京2020への期待もあったのではないかと考えられます。コロナ禍のため残念ながら2021年に延期となりましたが、然るべき準備を継続しながら、アスリートがベストパフォーマンスを発揮できる環境づくりに協力していきたいと思っております。

性別では男性8,811名、女性1,853名となっております。まだまだ女性の登録者数が少ない現状ですが、若い世代で徐々に増加傾向にあります。女性アスリートへのサポート活動も含め、学会として尽力していきたい分野と考えています。年代別では、30代が最も多く5,317名と約50%を占めています。ぜひとも若い世代の先生方の活躍を期待します。



日本スポーツ理学療法学会登録者数（性別・年代別）

## ・ 学術大会報告

2019年（令和元年）12月7日・8日に帝京平成大学（池袋キャンパス）にて、第6回日本理学療法学会学術大会（渡邊裕之 大会長）が開催されました。『大いなるレガシーを求めて-2020に向けたスポーツ理学療法の新体系-』をテーマに、国際総合競技大会における国内サポートの現状や海外情報を含め、様々な知識の整理ができた2日間でした。

一般演題は主題、口述、ポスター合わせて78演題の発表がありました。表彰された演題は、学術大会長賞として廣幡健二先生（東京医科歯科大学スポーツ医歯学診療センター）の「ACL再建術後選手と健常選手における片脚垂直連続ホッピング中の反応筋力指数の非対称性-片脚ホップテストとの比較を含めた分析-」、奨励賞として井野拓実先生（北海道科学大学）の「AIによる動作解析の妥当性検定と臨床応用」が選ばれました。スポーツ理学療法に携わる皆様のさらなる発展を祈念いたします。

今後、第7回日本スポーツ理学療法学会学術大会（伊藤浩充 大会長）は、2021年1月24日にウェブシステムを用いてオンラインにて開催予定です。また、第8回日本スポーツ理学療法学会学術大会（岡戸敦男 大会長）は、2021年12月11日・12日に愛知県にて開催予定です。奮ってご参加ください。



第6回学術大会の様子（写真）

## 【今後充実をはかりたいこと】

世界理学療法連盟 World Physiotherapy (旧称 WCPT: World Confederation for Physical Therapy) には 14 のサブグループ<sup>1)</sup>があります (図)。日本スポーツ理学療法学会は日本理学療法士協会のスポーツ理学療法部門として、スポーツのサブグループである国際スポーツ理学療法連盟 International Federation of Sports Physical Therapy (IFSPT) に、2011 年より正式に加盟しています。

### 世界理学療法連盟 (World Physiotherapy) サブグループ

**スポーツ** : International Federation of Sports Physical Therapy (IFSPT)

**鍼治療** : International Acupuncture Association of Physical Therapists (IAAPT)

**水治療法** : International Organization of Aquatic Physical Therapists (IOAPT)

**心肺** : International Confederation of Cardiorespiratory Physical Therapists (ICCrPT)

**電気物理学** : International Society for Electrophysical Agents in Physical Therapy (ISEAPT)

**HIV/腫瘍学/ホスピス/緩和ケア** :

International Physical Therapists for HIV/AIDS, Oncology, Hospice and Palliative Care (IPT-HOPE)

**メンタルヘルス** : International Organization of Physical Therapists in Mental Health (IOPTMH)

**筋骨格** : International Federation of Orthopaedic Manipulative Physical Therapists (IFOMPT)

**神経学** : International Neurological Physical Therapy Association (INPA)

**労働衛生と人間工学** :

International Federation of Physical Therapists working in Occupational Health and Ergonomics (IFPTOHE)

**高齢者** : International Association of Physical Therapists working with Older People (IPTOP)

**小児科** : International Organisation of Physical Therapists in Paediatrics (IOPTP)

**骨盤と女性の健康** : International Organization of Physical Therapists in Pelvic and Women's Health (IOPTPWH)

**民間** : International Private Physical Therapy Association (IPPTA)

日本理学療法士協会

日本スポーツ理学療法学会

IFSPT の日本の加盟は 2011 年 WCPT アムステルダムにおける IFSPT General Meeting にて日本理学療法士協会のスポーツ理学療法部門として正式に加盟した。

IFSPT は、スポーツに関わる理学療法士が、その専門性を発展させるための国際的なリソースであることを目指し、以下のような目的をもって設立された連盟となっています。

#### < IFSPT の主な目的<sup>2)</sup> >

- ・世界的なスポーツ理学療法法の推進
- ・スポーツ理学療法法の専門性と認識の向上させる
- ・スポーツ理学療法法の知識、スキル、職業上の役割に関する質の向上
- ・エビデンスに基づいたスポーツ理学療法を促進するための研究の促進
- ・さまざまなメディアを介した教育および専門情報の提供

IFSPT のいう”スポーツ理学療法士 Sports Physiotherapist” は、その定義に臨床的側面 (①スポーツ外傷・障害予防、②急性期対応、③リハビリテーション、④パフォーマンス強化、⑤安全で活動的生活の推進、⑪フェアプレーとアンチドーピングの推進) のほか、専門家としての姿勢 (⑥生涯学習、⑦プロフェッショナリズム、⑨情報の発信と共有)、そして学術的側面 (⑧研究推進、⑩新しい知識と技術の開発) が含まれています<sup>3)</sup>。

ただし、IFSPT に加盟している国々の法制度や他職種連携の在り方など環境も様々であるため、スポーツ理学療法士の職域や養成課程も各国の状況に合わせた形となっています<sup>4)</sup>。我が国においても、日本固有のスポーツを取り巻く環境に適応した形で、世界レベルの卒後教育の確立と IFSPT 基準のスポーツ理学療法士養成を目指しています。IFSPT との連携強化をはかっていくための活動も意識しており、2017 年 3 月には当時の IFSPT president の Nichola Phillip 先生を招いての研修会を開催し、また 2019 年本学会学術大会では前 IFSPT president の Anthony Schneiders 先生を招聘しております。この際には、日本のスポーツ理学療法の現状と今後について、情報共有と意見交換の場も設け、次に向けての有意義な討議ができました。



←第 6 回学術大会前日に  
Anthony Schneiders 先生との  
懇親会にて

#### 【参考文献】

- 1) <https://world.physio/subgroups> (2020 年 8 月 21 日閲覧)
- 2) <http://ifspt.org/about-ifspt/> (2020 年 8 月 21 日閲覧)
- 3) <http://ifspt.org/wp-content/uploads/2014/06/Competencies.pdf> (2020 年 8 月 21 日閲覧)
- 4) <http://ifspt.org/rispt/> (2020 年 8 月 21 日閲覧)